



BLUELOCK
unofficial fanbook#2
KAISER×ISAGI
presented by Aotsukitei

成人向け

R18
ADULT ONLY

18歳未満閲覧禁止



- 付き合ってるカイ潔
- 小説版での潔は五感が優れているという設定を使っています
- 軽い描写ですが脳イキ要素があります



カイザーと

初めて
セックスする



こいつのことだから
もっと貪るような
触り方をされる
かと思ってたのに

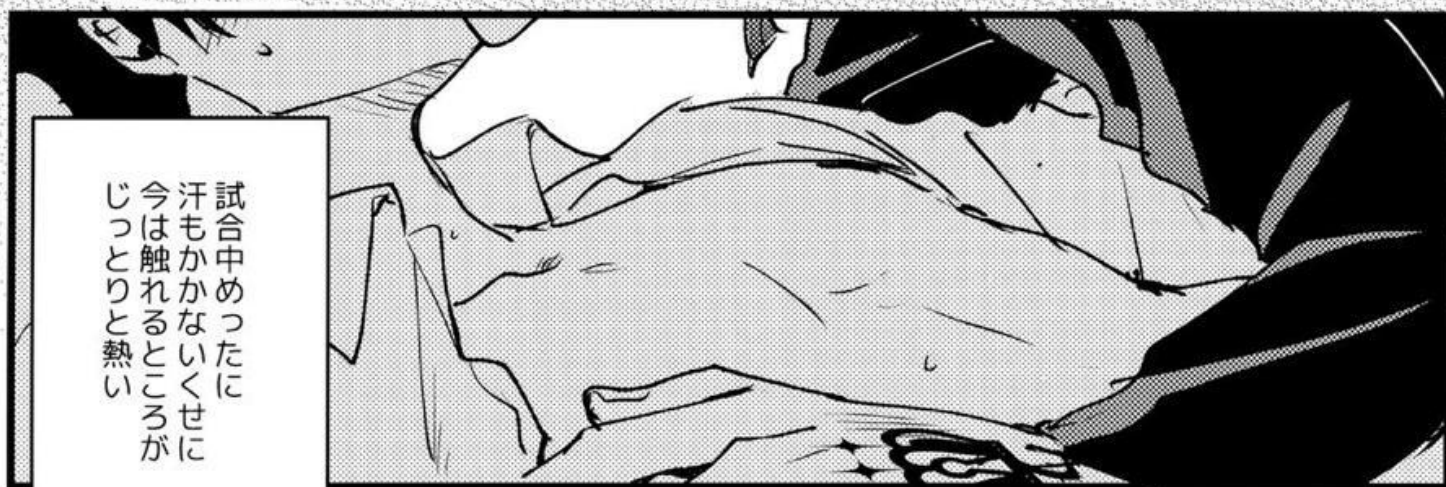
緊張して硬くなった
身体に触れてくる
手は優しい



ギッ...



カイザーが
いつも使ってる
ローズの香水の
甘い匂い



試合中めったに
汗もかかなくせに
今は触れるところが
じつとりと熱い



…なんだ？

はっ
なんかなんか
俺の身体

へん…



なあ

世…

キリ…

あ…



お前は俺を
驚かせる
天才だな

まだ肝心な
ところは触って
もないのに

服汚しちゃったな、
ゴメンな？ さっさと
全部脱がしとく
べきだったよ



……え？

はあ

な、なんで
うそだろ

は

俺イっ…

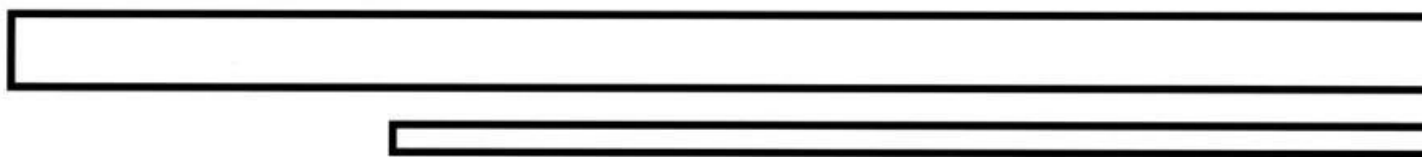
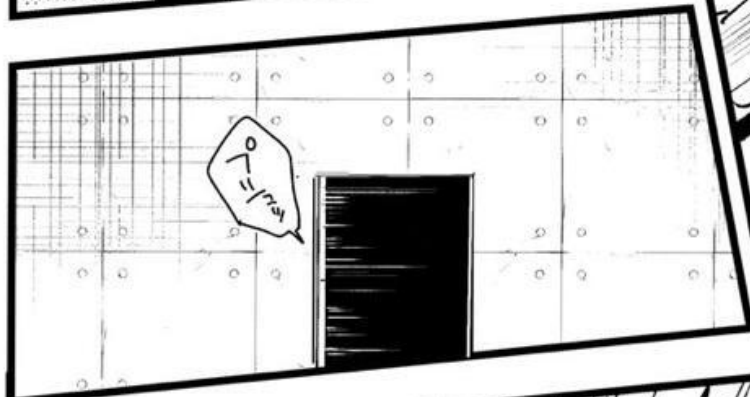
おいおい…



ちよつとエロ
すぎるん
じゃないか？



なあ世一







クソ
世一は？

ユラリ

え、まだ
戻ってきて
へんけど...

迷惑かけて悪い...
スペイン棟の
蜂楽んとこ行ってた

カイザーも
他の棟に行く
申請しに行ったけど
断られたみたいやな

人殺しやな
顔もたし

そ、そうか



あ、そうや

昨日結局潔くん
部屋に戻って
こんかったけど
探しにきたよ、
カイザー

え？



でも...



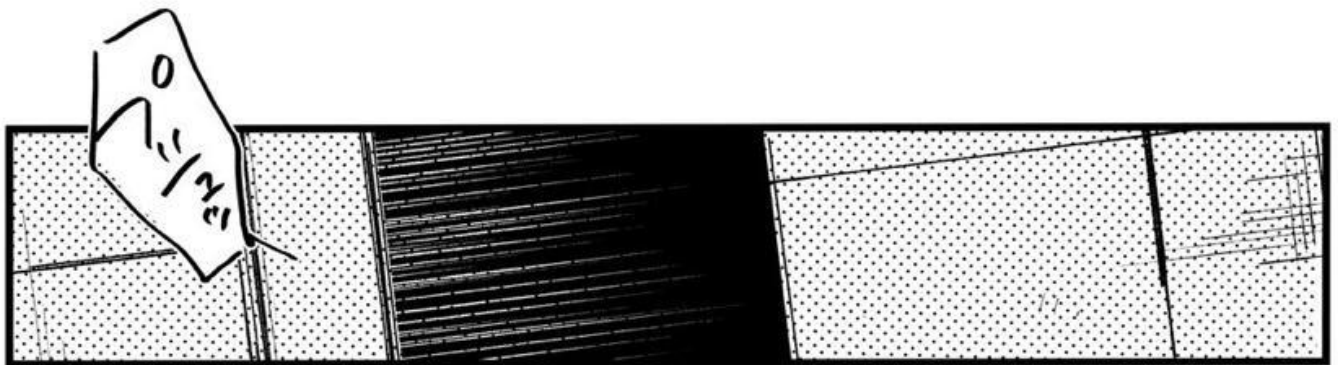
カイザー
焦ってて



少し
可哀そう
だった



...





妙に感度が
いいようだったが
媚薬でも飲んでたん
じゃないだろうな？

は？

なわけ
ねーだろ

じゃあなんだ？
ただの
淫乱体質か？

主母さんでも
殺してやるが！

は「倒すぞ

ちがう

「フ」

えっと…

俺昔から五感が
人よりも優れてる
らしくて

視力とか嗅覚とか
皮膚感覚とかさ、
そういうの

だがそう感覚が
敏感でこれまで
支障は
なかったのか？

世一の周りは
スキンシップが
多い奴も
居るだろう

あの邪な
ハエとか



ハエ言っただけ

いや、別に
問題なかった
けど

なんだろう、
昨日は…

お前の手が
いつもより優しく
触れてくる感覚とか

体臭交じりの
あの薔薇の
匂いとか…

ああ、

その特性が
お前のサッカーにも
活かされてるのか



いつもより低くて
落ち着いた声とか
熱い息とか...

そしたらなんか
身体が変になって
怖くなっちゃって...



聞いて
んのか？
カイザー

って



サッカーの時
あんなに派手に
動いてても汗一つ
かいてないのに

うっすら
汗ばんでる肌が
目に入ったりとか



はあ
本当に
世一くんは俺の
ことが好きねえ...

熱烈

は？

なんでも
そうなる？

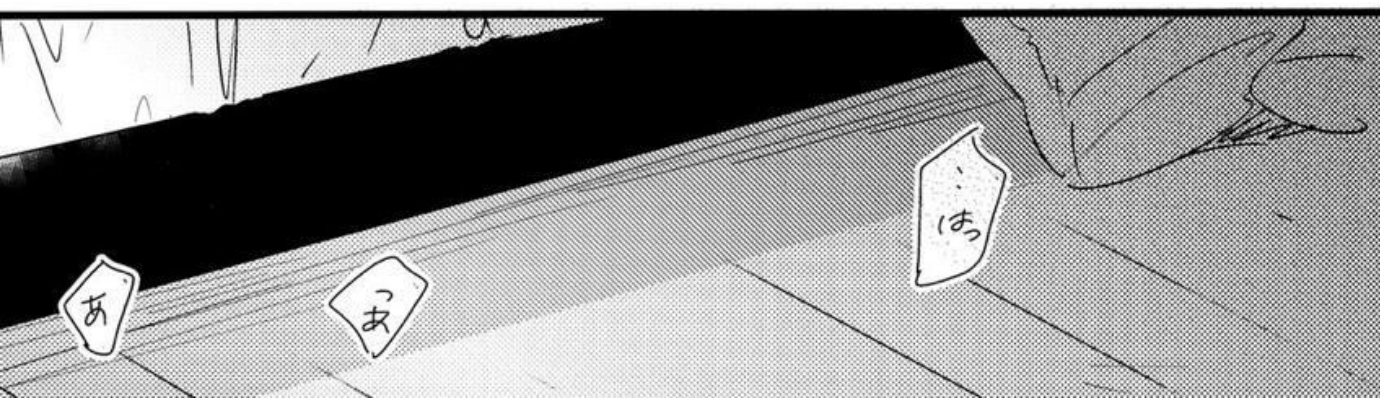


もういい、
分かった

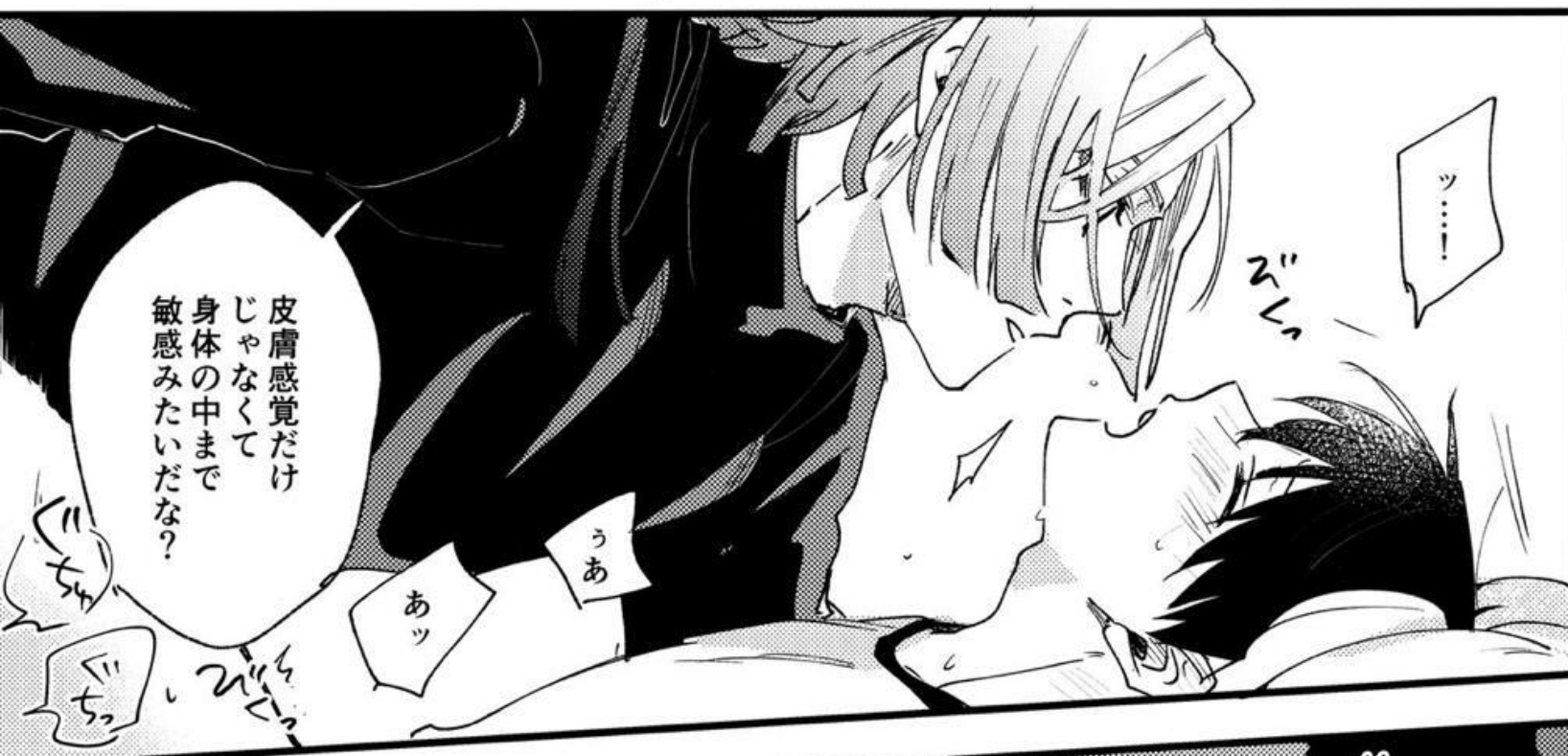
昨日のことは
許してやる



.....















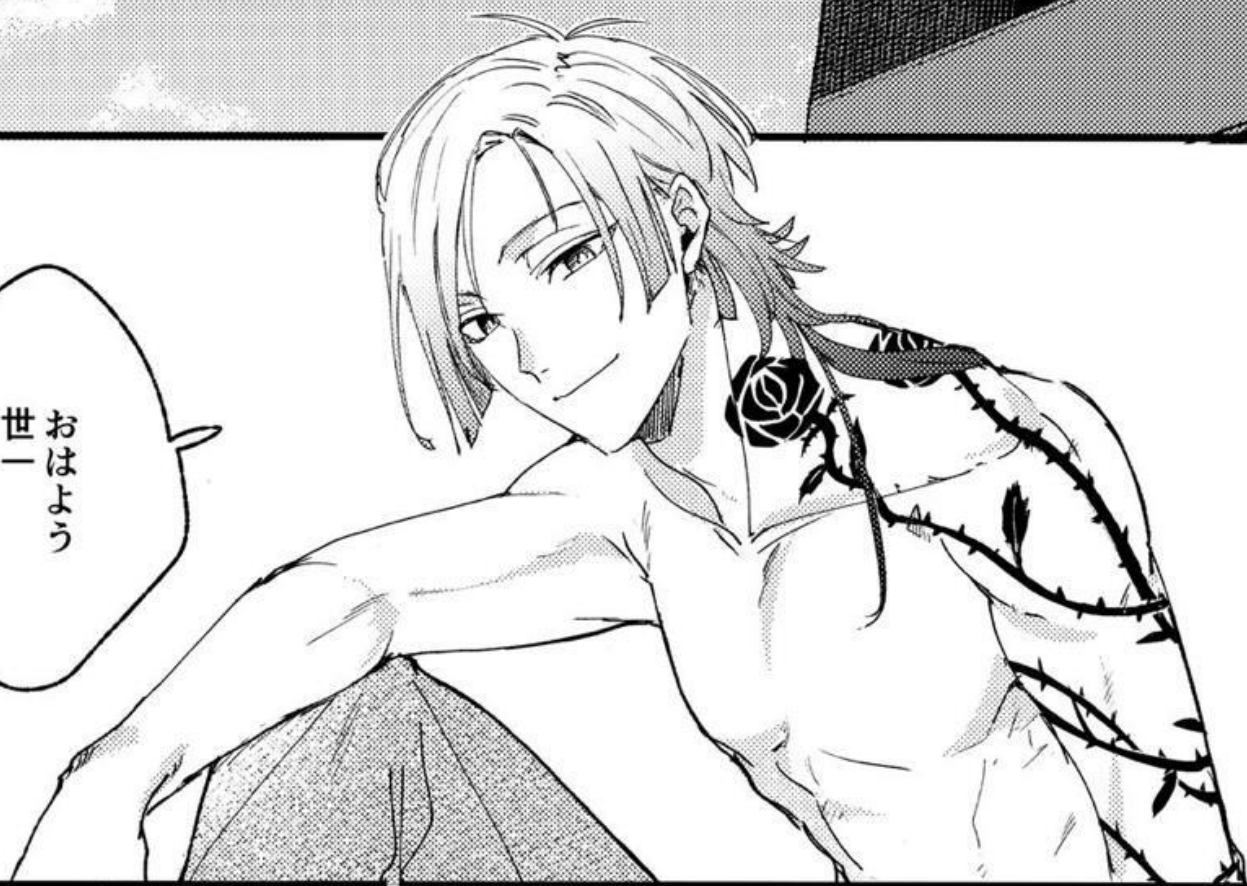
世一、



：しぬ
かも：



世一
おはよう



世一、
無視するな

こいつの好きに
させたら身が
もたねえ…

おい

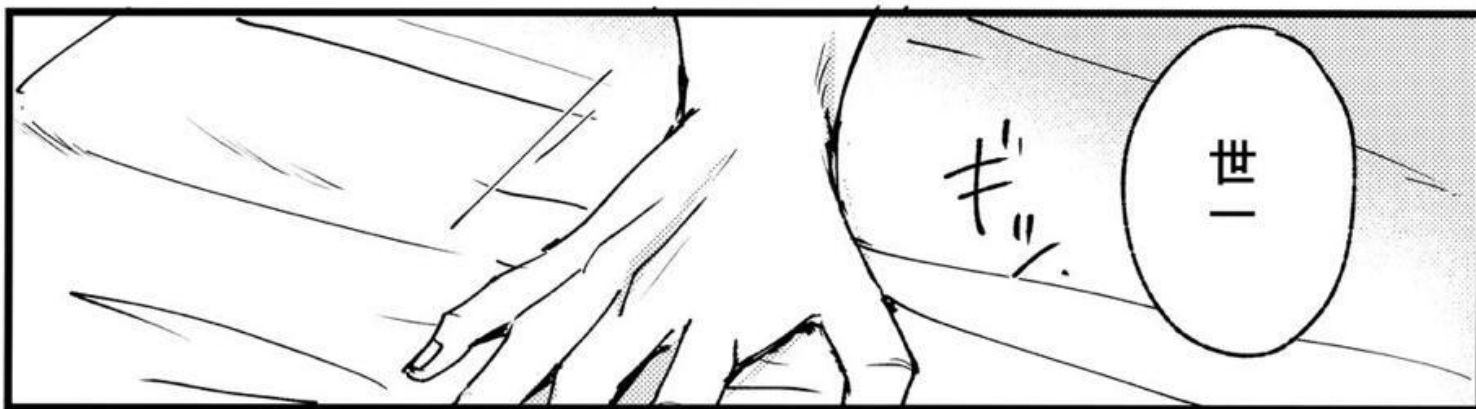
早急に対策
練らないと…



処女を
失った感想は？

疲

…デリカシー…



世一

ギッ



おいまい!

推しカプの初夜ネタは一億回くらい読みたい…ということで
初夜失敗からのやり直し話でした。

潔くんの五感優れてる設定は漫画のほうでは明言されるのかな、
めっちゃめっちゃ感じやすい体質って感じで曲解させて頂きました。
氷織くんの方言は全く自信がないのでふわっとした感じでお願いします…。

カイ潔で胸倉掴み萌えというジャンル(?)に目覚めたので
カイ→潔の胸倉掴み、潔→カイの髪の毛掴み描けて満足しました。
その他にも描きたいものごちゃごちゃと詰めてしまった感が
ありますが楽しかったです！

読んでくださりありがとうございました！

リベンジマッチ

発行日：2023.05.04

発行元：蒼月亭/蒼月蓮

pixiv ID:33934

印刷:株式会社栄光様

twitter:@blreen

Mail:allove.with18@hotmail.co.jp

※無断転載、オークション・フリマアプリ等への出品はご遠慮ください。

BLUELOCK
UnoofficialFanbook#2
20230504
Presented by Aotsukitei